

災害時に手助けが必要な人のための

(「障害のある方」と「ご高齢の方」を中心に)

防災の手引き



地域とつながる・地域で守る

はじめに

東日本大震災では、土浦市でも震度 6 弱を記録し、建物が壊れたりライフラインが途絶えたりといった被害が発生しました。

震災後に、障害のある方やご高齢の方に震災で困ったことや不安だったことを調査¹⁾したところ、地震直後の安否確認や情報不足、給水の大変さ、避難や避難所についての不安など多くの声があり、その背景には災害に対する準備不足や、市の対応(公助)が事前に知らされていないことなどがありました。また一方で、ご近所や友人に声をかけてもらったことが何よりありがたかったという声もあり、地域で助けあうことの大切さも改めて示された結果でした。

これらの調査結果をもとに、本書は、公助を活用しながら、「自分のことは自分で守り(自助)」、そして、「お互いに助け合う地域(共助)」作りのための情報を提供することを目的として作成しました。

1. 第Ⅰ部 障害のある方・ご高齢の方へでは、被害や不安を軽減するための 3 つの柱を示しました。

- ① 地震がおきたときの流れを頭の中でえがいてみましょう。
- ② 本格的な支援が始まるまでの 3 日間を乗り切る準備をしましょう。
- ③ 積極的に近隣や地域とつながりを持ちましょう。

2. 第Ⅱ部 地区長、民生委員、地域防災組織に向けてでは、障害のある方やご高齢の方の具体的な不便や不安を伝えながら、次の提案をしています。

- ① 災害時要援護者制度の進め方
- ② 避難所運営で障害のある方、ご高齢の方への配慮の内容

あわせて、平成 20 年度発行の「防災の手引き―障害のある方とサポートする方のために」も参考にしてください。

平成 25 年 3 月

土浦市・つくば国際大学・土浦市障害者(児)福祉団体連合会

1) 土浦市障害福祉アンケート(23年7月実施):(自由記述回答者1055名分析24年6月~9月実施)

障害者団体ヒアリング:回答者54名(24年8月・9月実施)

酸素ボンベ等使用者への電話調査:回答者11名(24年9月10日~21日実施)

高齢者へのアンケート調査:回答者72名(24年8月27日~9月21日実施)